



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年10月29日

上場会社名 株式会社ホリプロ 上場取引所 東
 コード番号 9667 URL <http://www.horipro.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 堀 義貴
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員 (氏名) 安永 和男 (TEL) 03-3490-4601
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月15日 配当支払開始予定日 平成22年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	10,283	3.8	1,007	65.7	1,104	52.5	427	49.7
22年3月期第2四半期	9,903	0.2	608	△38.0	724	△36.8	285	△32.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	30.17	—
22年3月期第2四半期	20.16	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	24,989	19,626	77.8	1,371.74
22年3月期	25,958	19,504	74.5	1,364.25

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 19,447百万円 22年3月期 19,341百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	5.00	—	19.00	24.00
23年3月期	—	7.00			
23年3月期(予想)			—	17.00	24.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,413	3.1	1,702	6.1	1,874	0.3	750	22.1	52.90

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：有

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期2Q	14,182,800株	22年3月期	14,182,800株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

23年3月期2Q	5,651株	22年3月期	5,596株
----------	--------	--------	--------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期2Q	14,177,164株	22年3月期2Q	14,177,392株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料及び添付資料記載の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第2四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. (個別) 個別財務諸表等	11
(1) (参考) 四半期貸借対照表	11
(2) (参考) 四半期損益計算書	13
(第2四半期累計期間)	13

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

<全般の概況>

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、各種経済対策をはじめとする政策の効果等を背景に景気に持ち直しの動きが見られたものの、デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念は依然残っており、先行きに慎重な見方を残しました。また、当業界を取り巻く環境も企業の広告宣伝費の削減等の影響を受け、厳しい状況が継続いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、次世代のスターの発掘・育成を図り、根幹であるタレントマネジメントを軸に、そこから派生するさまざまなビジネスを拡大させ、映像、肖像、音楽等に関わる多くの権利を保有する「コンテンツホルダー」として、人々の心に夢や感動を提供するエンターテインメントの創造に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期の連結業績は、営業収入102億83百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益10億7百万円（同65.7%増）、経常利益11億4百万円（同52.5%増）、四半期純利益4億27百万円（同49.7%増）となりました。

<報告セグメントごとの概況>

① 出演事業

出演事業においては、和田アキ子、片平なぎさ、榊原郁恵、船越英一郎などのベテラン勢による安定した活躍に支えられ、映画「恋愛戯曲～私と恋に落ちてください。～」主演として出演した深田恭子、舞台「ムサシ」「黙阿彌オペラ」に主演した藤原竜也、モンリオール世界映画祭出展作品「悪人」主演の妻夫木聡、日本テレビドラマ「ホタルノヒカリ2」、TBS『「NEWS 23クロス」特別企画「綾瀬はるかたどる戦争の記憶～65年目の証言～」』に出演した綾瀬はるか、映画「君が踊る、夏」ヒロイン役を務めた木南晴夏、関西テレビドラマ「逃亡弁護士」に出演した石原さとみ、NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の水木しげる役を演じた向井理、ミュージカル「エリザベート」に出演した田代万里生、NHKスペシャル 終戦特集ドラマ「15歳の志願兵」主演の池松壮亮など、多くの若手タレントがその活躍の場を広げています。

お笑いタレントでは、さまぁ〜ず、手相占いや開運スポットめぐりで話題の島田秀平、バナナマンなどが数多くのバラエティ番組で活躍しました。

また、今年35回目を迎えるホリプロタレントスカウトキャラバン「スターオーディション2010」では、安田聖愛（中学2年生）がグランプリを獲得しました。

この結果、当事業の営業収入は36億88百万円となり、営業利益は12億20百万円となりました。

② 映像事業

映像事業においては、テレビ番組の制作では、テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」「お試しかっ!」のレギュラー番組に加え、2本の連続ドラマ、関西テレビ「逃亡弁護士」、朝日放送「崖っぶちのエリー～この世でいちばん大事な『カネ』の話～」、単発番組の毎日放送「情熱大陸～編集者・松岡正剛」、WOWOW「トイレ進化論」などを制作しました。

コマーシャル制作では、「東京ガス」、「マルハン」、「永谷園」、「デサントマンシングウェア」など多くの作品を制作しました。

DVDの制作では、故・井上ひさし氏の最後の作品となった舞台「組曲 虐殺」、日英共同プロジェクト舞台「ANJIN」、「島田秀平 オススメ!開運パワースポット巡り」、「バナナマン傑作選ライブ DVDBOX (Punch・Kick・Chop)」など質の高い作品を制作・リリースしました。

その他、配信分野においては、携帯専用放送局BeeTV「和田アキ子最強バトル!」、GyaO!やWiiの動画配信コンテンツなどを制作しました。

この結果、当事業の営業収入は24億73百万円となり、営業利益は1億67百万円となりました。

③ 音楽事業

音楽事業においては、CDでは、かりゆし58のアルバム「めんそーれ・かりゆし」、May'nのシングル「Ready Go!」、綾瀬はるかのシングル「マーガレット」、大島麻衣（元AKB48）のシングル「愛ってナンダホー」などが発売されました。

DVDでは、南波志帆が歌う人気絵本「こびとづかん」シリーズ待望のDVDのテーマ曲「こえをきかせて」、今年デビュー10周年を迎えた尺八奏者・藤原道山がチェリスト古川展生、ピアニスト妹尾武と結成したユニット“KOBUDO -古武道-”初となるDVD作品「古武道音絵巻 ～其の一～」が発売され、さらにDVDの発売を記念したライブを開催しました。

この結果、当事業の営業収入は9億48百万円となり、営業利益は2億60百万円となりました。

④ 公演事業

公演事業においては、舞台公演では、藤原竜也主演の故・井上ひさし氏追悼公演「黙阿彌オペラ」、1981年の日本初演以来、今年30周年を迎えたブロードウェイミュージカル「ピーターパン」、市村正親、武田真治出演の「ロックンロール」、2008年、2009年に続き3年連続上演し、連日ソールドアウトとなったドラマ・エンターテインメント「ドラムストラック」、ホリプロ所属の若手男性俳優による「12人の優しい殺し屋」、和田アキ子の激動の半生を舞台化した「和田アキ子物語」などを上演しました。

コンサート公演では、May'nライブツアー「May'n SUMMER TOUR 2010 『Phonic◆Nation side-A/B』」を全国16都市で開催しました。

この結果、当事業の営業収入は15億77百万円となり、営業利益は1億円となりました。

⑤ 小 売 事 業

小売業においては、ファッション雑貨ショップ「ルートスター」やアクセサリを専門に取り扱う「エクスペリー」では、トレンドに敏感な女性をターゲットにした魅力溢れる商品を、駅ビルを中心に全国で販売展開しています。また、ベルギー生まれの世界的なカジュアルバッグブランド「キプリング」の日本総輸入販売元として、全国の主要都市の店舗などで販売しました。

この結果、当事業の営業収入は15億46百万円となり、営業利益は34百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

<資産、負債及び純資産の概況>

当第2四半期連結会計期間末における資産は249億89百万円（前連結会計年度末比9億68百万円減）となりました。

流動資産は146億41百万円（同2億14百万円減）となりました。この変動の主なものは、現金及び預金の減少（12億50百万円）、有価証券の増加（13億96百万円）であります。また、固定資産については、投資有価証券の減少（4億66百万円）、保険積立金の減少（5億38百万円）等により103億47百万円（同7億53百万円減）となりました。

負債は53億63百万円（同10億90百万円減）となりました。流動負債は、支払手形及び営業未払金の減少（同2億10百万円）、未払法人税等の減少（2億15百万円）等により46億40百万円（同8億18百万円減）となり、固定負債は、役員退職慰労引当金の減少（3億20百万円）等により7億22百万円（同2億71百万円減）となりました。

純資産は、四半期純利益の計上等により196億26百万円（同1億21百万円増）となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は77.8%（同3.3%上昇）となり、1株当たり純資産額は1,371円74銭（同7円49銭増加）となりました。

<キャッシュ・フローの概況>

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して49百万円増加し、95億50百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は36百万円（前年同期比14億27百万円減）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益の計上による増加（5億86百万円）、法人税等の支払（3億48百万円）、役員退職慰労引当金の減少（3億20百万円）等が反映されたものであります。

投資活動の結果得られた資金は、投資有価証券の取得による支出（7億6百万円）、保険積立金の解約による収入（5億97百万円）等により2億71百万円（同1億67百万円減）となりました。

財務活動により使用した資金は、主として配当金の支払により2億77百万円（同6億17百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期までの業績の進捗状況及び今後の事業環境等を勘案した結果、平成22年5月14日に公表いたしました通期の業績予想（連結・個別）を修正しております。詳細につきましては、平成22年10月29日付「第2四半期累計期間業績予想との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

重要性が乏しい連結子会社においては、業績の著しい変化が発生しておらず、かつ、四半期財務諸表上の一時差異等の発生状況について前年度末から大幅な変動がないため、四半期財務諸表における税金費用の計算にあたり、税引前四半期純利益に前年度の損益計算における税効果会計適用後の法人税等の負担率を乗じて計算する方法によっております。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

「資産除去債務に関する会計基準」の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

この結果、従来の方によった場合に比べて、第2四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は21百万円減少しております。

なお従来、店舗閉鎖損失引当金として計上していた金額は、当会計基準等の適用により資産除去債務の一部として引き継がれております。

当会計基準等の適用開始時における資産除去債務の金額は76百万円であり、そのうち従来店舗閉鎖損失引当金として計上していた金額は26百万円になります。当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額はこの両者の差額として算出し、49百万円となっております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,050	8,300
受取手形及び営業未収入金	2,293	2,431
有価証券	3,194	1,798
商品	678	801
仕掛制作費	464	463
その他	1,010	1,106
貸倒引当金	△50	△44
流動資産合計	14,641	14,856
固定資産		
有形固定資産	2,592	2,431
無形固定資産	468	536
投資その他の資産		
投資有価証券	4,601	5,068
その他	2,815	3,207
貸倒引当金	△129	△141
投資その他の資産合計	7,286	8,133
固定資産合計	10,347	11,101
資産合計	24,989	25,958
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,529	1,740
短期借入金	1,350	1,350
未払法人税等	151	367
賞与引当金	269	146
役員賞与引当金	40	89
その他	1,299	1,765
流動負債合計	4,640	5,458
固定負債		
退職給付引当金	98	92
役員退職慰労引当金	304	625
店舗閉鎖損失引当金	—	26
資産除去債務	97	—
その他	222	250
固定負債合計	722	994
負債合計	5,363	6,453

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,583	4,583
資本剰余金	4,619	4,619
利益剰余金	10,676	10,517
自己株式	△5	△5
株主資本合計	19,872	19,714
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△90	△60
為替換算調整勘定	△335	△312
評価・換算差額等合計	△425	△373
少数株主持分	179	163
純資産合計	19,626	19,504
負債純資産合計	24,989	25,958

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業収入	9,903	10,283
営業原価	7,197	7,363
売上総利益	2,706	2,920
販売費及び一般管理費	2,098	1,912
営業利益	608	1,007
営業外収益		
受取利息	61	45
受取配当金	13	13
受取保険料	—	30
その他	48	28
営業外収益合計	124	118
営業外費用		
支払利息	5	6
為替差損	—	6
その他	1	8
営業外費用合計	7	21
経常利益	724	1,104
特別利益		
貸倒引当金戻入額	16	—
店舗開店負担金収入	14	2
特別利益合計	30	2
特別損失		
投資有価証券評価損	32	399
店舗閉鎖損失	20	—
その他	24	121
特別損失合計	76	520
税金等調整前四半期純利益	678	586
法人税、住民税及び事業税	123	129
法人税等調整額	258	8
法人税等	381	138
少数株主損益調整前四半期純利益	—	448
少数株主利益	11	20
四半期純利益	285	427

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	678	586
減価償却費	105	118
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	15	△320
受取利息及び受取配当金	△75	△58
支払利息	5	6
売上債権の増減額 (△は増加)	1,103	137
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△139	122
仕入債務の増減額 (△は減少)	△558	△225
その他	△92	△53
小計	1,042	312
利息及び配当金の受取額	84	58
利息の支払額	△5	△5
法人税等の支払額	△141	△348
法人税等の還付額	483	19
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,463	36
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	300
有価証券の売却による収入	600	208
有形固定資産の取得による支出	△60	△204
無形固定資産の取得による支出	△3	△8
投資有価証券の取得による支出	△189	△706
投資有価証券の売却による収入	100	124
保険積立金の解約による収入	—	597
その他	△7	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	438	271
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	350	—
配当金の支払額	△1	△268
その他	△8	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	339	△277
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	△11
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,255	17
現金及び現金同等物の期首残高	5,848	9,500
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	32
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,103	9,550

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

	出演事業 (百万円)	メディア 事業 (百万円)	音楽事業 (百万円)	公演事業 (百万円)	小売事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高	3,378	1,972	617	2,050	1,594	290	9,903	—	9,903
営業利益(又は営業損失)	1,028	252	68	227	(146)	(51)	1,378	(770)	608

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、記載を省略しております。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

[セグメント情報]

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は事業の種類別に事業部を配置し、各事業部は事業の種類別に芸能タレント等のマネージメント、映像制作、音楽制作、演劇等の公演、アクセサリー等の小売販売を主な内容とした事業展開をしております。

従って、当社は部門を基礎とした事業の種類別セグメントから構成されており、「出演事業」、「映像事業」、「音楽事業」、「公演事業」及び「小売事業」の5つを報告セグメントとしております。

「出演事業」は主にテレビ番組・演劇等へのタレントの出演、「映像事業」は主にテレビ番組、コマーシャルフィルム等の映像制作、「音楽事業」は主に音楽原盤の企画制作並びに音楽著作権の獲得・管理、「公演事業」は主にミュージカル等の演劇公演やイベントの運営、「小売事業」はアクセサリー・バッグ等の販売を取り扱っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	出演	映像	音楽	公演	小売	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,418	2,457	944	1,556	1,541	9,918	365	10,283
セグメント間の内部売上 高又は振替高	270	15	3	20	5	316	36	352
計	3,688	2,473	948	1,577	1,546	10,234	402	10,636
セグメント利益又は損失 (△)	1,220	167	260	100	34	1,783	△56	1,726

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種スクール運営事業、ファンクラブ運営事業、ライセンス事業、劇場運営事業等を含んでおります。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,783
「その他」の区分の損失	△56
セグメント間取引消去	△12
全社費用(注)	△706
四半期連結損益計算書の営業利益	1,007

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. (参考) 個別財務諸表等

(1) (参考) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,078	5,495
受取手形及び営業未収入金	1,878	2,039
有価証券	3,194	1,798
商品	0	—
仕掛制作費	464	463
その他	772	936
貸倒引当金	△49	△42
流動資産合計	10,340	10,690
固定資産		
有形固定資産	2,463	2,320
無形固定資産	217	228
投資その他の資産		
投資有価証券	7,296	7,757
その他	2,902	3,236
貸倒引当金	△132	△144
投資その他の資産合計	10,066	10,849
固定資産合計	12,746	13,398
資産合計	23,087	24,089

(単位：百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,086	1,301
未払法人税等	81	314
賞与引当金	238	120
役員賞与引当金	36	82
その他	1,048	1,374
流動負債合計	2,491	3,193
固定負債		
役員退職慰労引当金	226	553
資産除去債務	50	—
その他	166	254
固定負債合計	443	808
負債合計	2,934	4,001
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,583	4,583
資本剰余金	4,619	4,619
利益剰余金	11,001	10,909
自己株式	△5	△5
株主資本合計	20,197	20,105
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△44	△18
評価・換算差額等合計	△44	△18
純資産合計	20,153	20,087
負債純資産合計	23,087	24,089

(注) この四半期貸借対照表は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(2) (参考) 四半期損益計算書

[第2四半期累計期間]

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業収入	7,365	7,646
営業原価	5,837	6,037
営業総利益	1,528	1,609
一般管理費	834	785
営業利益	694	824
営業外収益	163	157
営業外費用	12	31
経常利益	845	950
特別利益	12	0
特別損失	160	516
税引前四半期純利益	697	434
法人税、住民税及び事業税	78	62
法人税等調整額	261	10
法人税等合計	339	73
四半期純利益	357	361

(注) この四半期損益計算書は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。